

抄読会（分野打ち合わせ）

少子高齢化社会における小児医療の現状と課題

博士課程 1 年目 田邊雄大

概要

昨今、急速に日本は少子化が進行している。合計特殊出生率（女性一人が人生で出産する人数）は 1.20 まで低下しており、政府は少子化対策を講じるものの、効果は得られていない状況である。しかし、これは日本だけの問題ではなく、国際的な問題であり、今後多くの国で人口は減少に転じると言われている。

そんな中、日本国内における医療費は年々増加している。これは、高齢者に対する医療費が年々増加しているからであるが、小児患者は減少の一途を辿るために、小児医療は縮小している。この現状については明らかにされていないが、臨床現場では不採算部門である小児医療の非効率性を感じている。具体的には、患者の集約化が行われておらず、各入院施設において、少ない小児科医が奮闘しているのである。そこで、将来に渡って更に進行する少子化社会において、医療資源（病床数）をいかに適正に配分すべきかを検証するモデルを構築することを研究テーマに据えた。

今回の抄読会では、少子化社会の現状と、小児医療の現状を共有し、今後の研究にむけての意見交換を行った。今後は、研究の詳細を検証していく予定である。将来的には、医療政策に関与する研究にしたいと考えている。